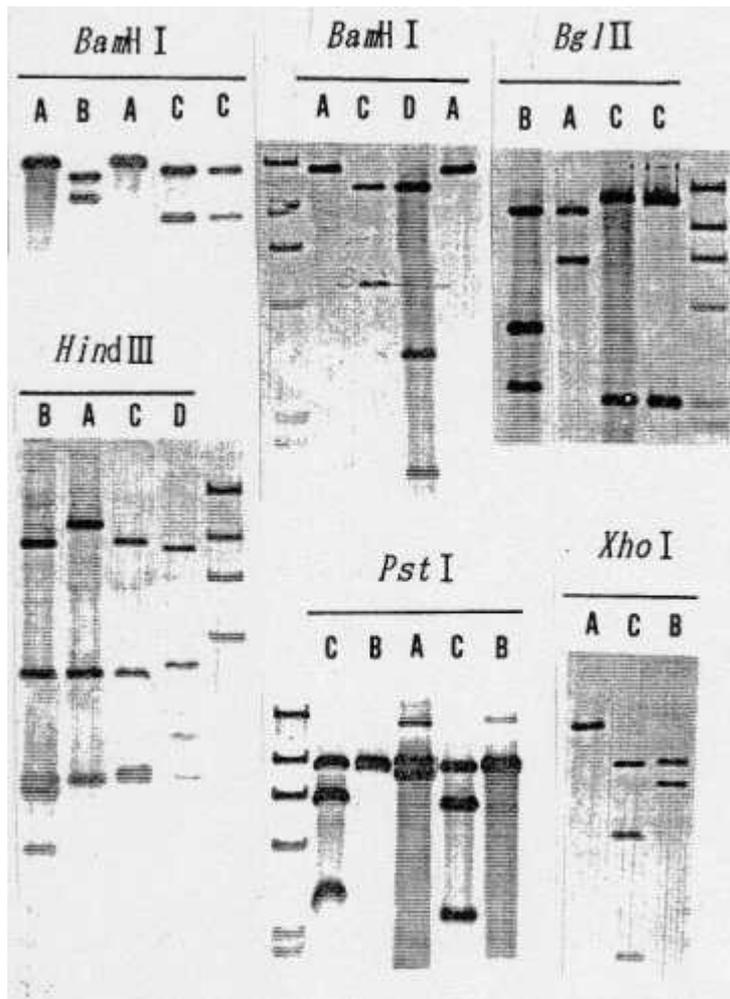


# 角のあるカレイ、メイタガレイの研究 「徳島県沿岸の二種類のメイタガレイ」

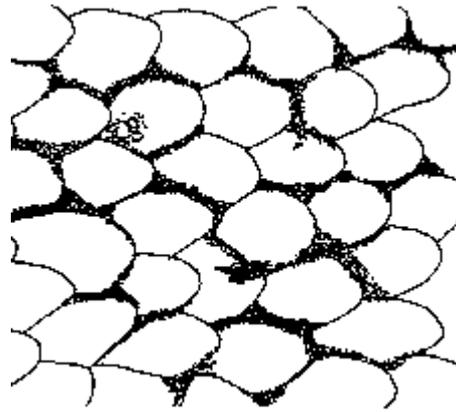
主任専門技術員 渡辺健一

メイタガレイは従来一種類と考えられていたが、徳島県沿岸において、アイソザイムを用いての遺伝的分析により、形態的にはよく似ているが遺伝的に交流のない二集団のあることが確認された。さらに、ミトコンドリア DNA 分析により、この二集団 — **メイタガレイ** (通称ホンメイタ) と **ナガレメイタガレイ** (通称バケメイタ) — は、遺伝的に種レベルに大きく分化したと考えることが明らかになった。この二集団の生態は、メイタガレイが徳島県沿岸の瀬戸内海側に分布しているのに対して、ナガレメイタガレイは沿岸域ではあるが紀伊水道外海のやや深い海域を主生息域とすること、産卵期に若干のずれのあることなどが明らかになった。また、形態的には、幾つかの形態で統計的差が認められ、鱗の並び方ではほぼ両者を識別できることが明らかになった。このように、メイタガレイ類の増殖、資源管理の計画を進めていく場合の基礎的知見が明らかになった。



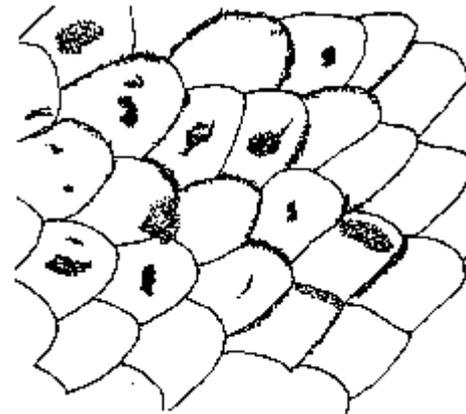
←  
メイタガレイ2種のミトコンドリア DNA の制限酵素による切断片型  
**BamHI:** A, B—メイタガレイ、  
C, D—ナガレメイタガレイ  
**Bgl II:** A, B—メイタガレイ、  
C—ナガレメイタガレイ  
**Hind III:** A, B, C—メイタガレイ、  
D—ナガレメイタガレイ  
**Pst I:** A, B—メイタガレイ、  
C—ナガレメイタガレイ  
**Xho I:** A—メイタガレイ、 B,  
C—ナガレメイタガレイ

メイタガレイ2種の鱗の比較

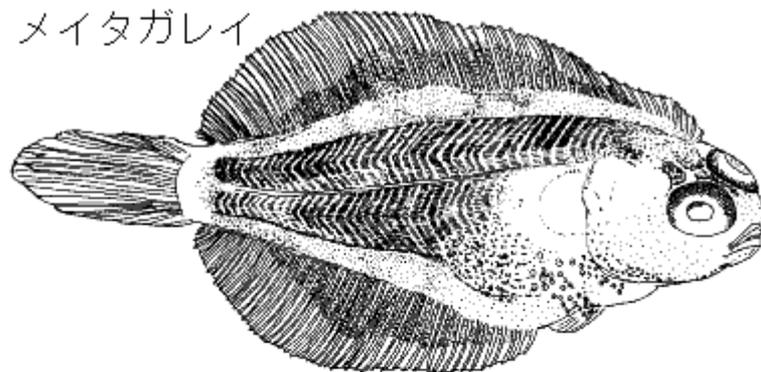


▲メイタガレイの鱗…一列に並ぶ傾向がある。

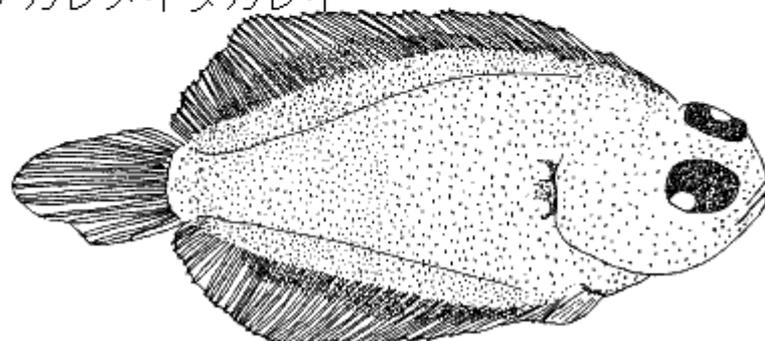
ナガレメイタガレイの鱗…不規則に並ぶ。小黒色素胞、斑紋も異なる▼



メイタガレイ



ナガレメイタガレイ



### メイタガレイとナガレメイタガレイの着底稚魚 (渡辺 1993)

メイタガレイ(上)の着底稚魚は、有眼側の体側に無数の短い線状の斑紋が形成され、複雑な模様を呈する。

ナガレメイタガレイ(下)には、この斑紋はなく、無数の不定型の小さな黒色色素胞が散在するのみ。

ナガレメイタガレイの黒色色素胞は尾柄部後端にまで分布しているのに対し、メイタガレイは、同部後端まで分布していない。

---